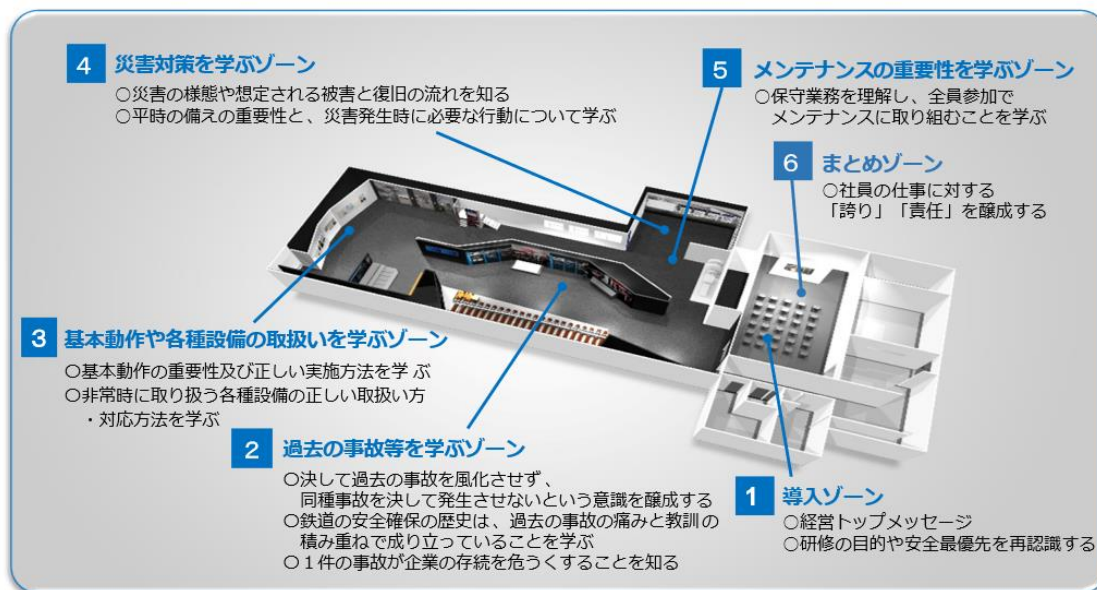


安全・安心を担う人材を育てる

社員への安全研修

地下鉄・ニュートラムの安全・安心は、社員一人ひとりの意識・行動のもとに確保されています。その意識・行動を育むために、Osaka Metro では「人づくり」に力をいれています。

「最高の安全・安心」を目指す Osaka Metro では、交通事業において最も重要な基本原則である「安全はすべてに優先する」という理念を全社員の心に深く刻むことを目的とした体験型研修施設「輸送の生命館」を設けています。



輸送の生命館では主に次の研修を実施しています。

1 全体安全研修（全社員対象）

過去に発生した事故・トラブルの原因や背景、現在定められているルールや取扱いがなぜあるのかを学び、決して同種の事故を繰り返さないという意識を高める体験型研修と、鉄道事業を安全に運営するための基礎的な知識や事例を基に事故等の予防策を考え、気づく力、考える力及び行動することの重要性を学ぶための研修



2 新規採用者研修（新規採用者）

新入社員に対して、鉄道の安全に関する基本的な知識を習得させるとともに、安全に対する理解と高い意識を身につけさせることで、Osaka Metro の一員として安全を最優先に行動できる企業人の育成するための研修



3 鉄道事業理解研修（キャリア採用者）

社会人経験をもって入社された社員に対しては、それまでの経験に関わらず、鉄道事業の基本的な理解を深めていただくとともに、組織の一員として安全を最優先に行動できるよう、鉄道事業特有の安全管理の考え方や手順を習得するための研修

安全・安心を担う人材を育てる

危険体感研修

労働災害体感研修

労働災害に対する教育は、机上教習では臨場感がなく、災害時の本当の怖さを伝えきれないことから、安全に対する意識を高めるため、危険体感施設（実際に危険を体感できる施設）にて体感研修を実施しています。



新しい技術を活用し人材を育てる

VRを活用した危険感受性向上訓練システム装置

VR（Virtual Reality：仮想現実）を活用した危険感受性向上訓練システム装置は、各作業環境で想定される危険な状況をVR上で疑似体感し、危険に対するリスクの感度を向上させるものです。

CG（Computer Graphics：コンピュータを使った画像）でのVRを活用することで、実映像では再現不可能な触車などの重大事故防止に関する訓練及び急曲線や渡り線部などの危険な場所を凝縮した空間の構築を可能とし、「安全」かつ「リアル」な危険体感が可能となっています。

この装置で訓練することにより、実作業に携わる社員には、鉄道従事者として、過去の教訓をよりリアルに体験し、教訓の継承や、危険感受性のさらなる向上を図り、実作業に携わらない社員には、職場の仲間がこのような危険な箇所で働いていることを強く共感することにより、全社員の「安全最優先」の意識を涵養するものです。

VRで再現した作業環境 4 箇所（イメージ画像）



急曲線部



直線部



渡り線部



停留場部

それぞれの作業環境の中には色々なイベントがあり、ヘッドマウントシステムを写真のように装着することで仮想空間に入り、各種体験ができるようになっています。



コーポレート部門



技術部門（2025 年度新規採用者）

安全・安心を担う人材を育てる

安全に関する気づき情報等優秀事例表彰及び 本社部門における安全の取組み表彰

Osaka Metro 社員の全員参加による安全意識のさらなる向上及び職場環境の改善を図るとともに、安全輸送の更なる向上を目的として、事故の芽情報（ヒヤリハット、社員の気づき）に基づいて防止対策を実施し、安全確保に顕著な貢献があったと認められる社員もしくは事業所に対し表彰を行いました。また、本社部門における安全の取組みで優秀賞に選出された部の表彰を行いました。

（安全に関する気づき情報等の受賞した取組み内容）

- ・「梅田駅 A 階段の整理用ボールのぐら付き」
- ・「あびこ駅内の捻架（ネンガ）点の注意喚起」
- ・「フォークリフトの安全表記ライン（LED ラインライト）設置について」

（本社部門の受賞した取組み内容）

- ・レジリエンス・シミュレーション訓練の展開



専門研修・訓練（運輸系の研修等の一部を紹介）

異常時対応力を高める訓練

故障や災害などの事象への適切な対応力を高めるため、各乗務所に設置している運転シミュレータを使用した異常時対応訓練や、地震及び大津波を想定した避難誘導訓練等を行い、的確かつ迅速な対応能力の更なる向上を図っています。



駅係員による駅扱い教育訓練や企画立案訓練等

輸送指令所から駅の信号機を遠隔制御できなかった場合に備え、当該駅の信号を操作して電車の安全運行を確保する駅扱い教育訓練や管区駅独自で訓練内容を企画し実施する企画立案訓練等を行っています。



安全・安心を担う人材を育てる

専門研修・訓練（技術系の研修等の一部を紹介）

電気部

毎年テーマを決めて「災害を想定した訓練」を実施しています。昨年度は、線路内に飛来物が侵入したことで列車の運行障害が発生していることを想定し、その際の連絡体制や処置について実技を交えて訓練を実施しています。



車両部

車両が脱線したことを想定した脱線復旧訓練や車輪が固着して回転しなくなった場合を想定した車軸不回転の訓練、また、洪水の際に地上の検車場から地下にある本線への水の流入を防ぐため、鉄扉の開閉状況確認も含めた取扱い訓練なども実施しています。



工務部

作業や職場に潜む危険要因を発見・解決する能力を高め、ヒューマンエラーによる労働災害・事故防止を目的とした『保線 KYT 大会』を実施しています。リーダーを中心にベテラン社員と若手社員が一丸となり、危険を予知・予測し、リスクを先取りする感受性やチームワークを高め、職場におけるゼロ災害を目指しています。



建築部

一般地上建築とは異なる条件や環境を有する地下鉄の建築施設の管理において、事故やトラブル、自然災害等に柔軟に対応するため、個人と組織の能力向上を図る訓練や研修を実施しています。特に、若手社員を対象に適切な施設管理に必要な知識等の習得を目的とした、座学や現場管理における OJT 活動等を通じたサポート研修を実施しています。

